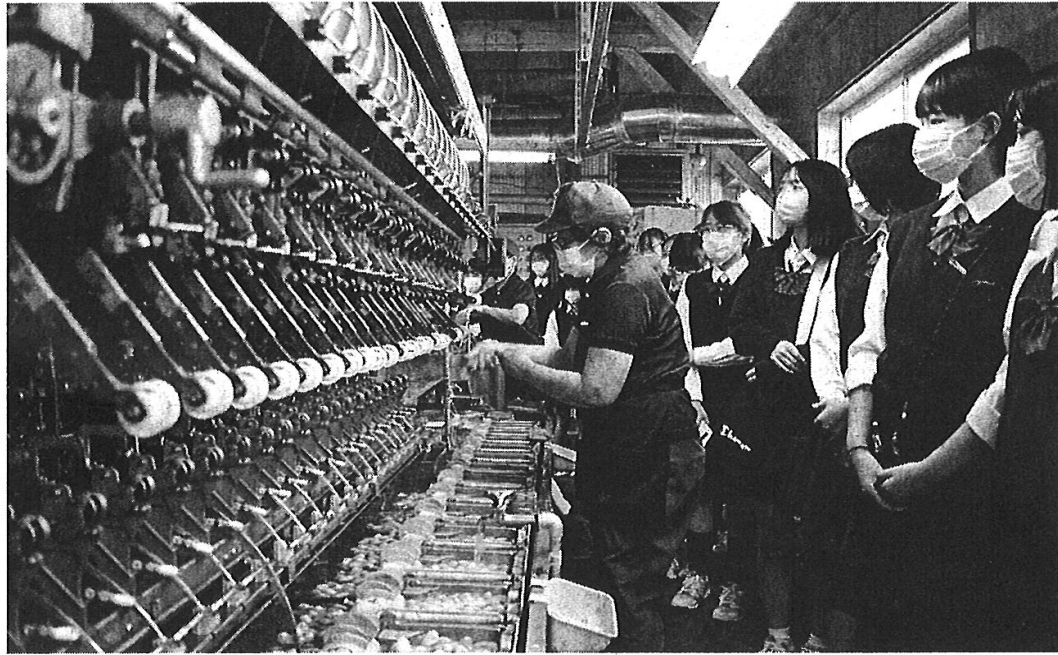




総合学科 家政科学系列 被服系

シルクガールズプロジェクト

鶴岡の製糸業を学ぶ シルクツアー



ドレスを夢見て 山形・高校生が生糸作り見学

山形県酒田市の老舗生糸メーカー「松岡」で、今秋に仕入れた繭を使った生糸作りが始まっている。煮た繭から糸を引き出す自動繰糸機は1972年製で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録された富岡製糸場（群馬県）で使われたものと同型。日本の近代化を支えた製糸業の伝統を守り続けている。

3日は、出来上がった生糸を使い鶴岡市で織られた「鶴岡シルク」繭から糸を取り出す作業を見学する高校生ら（山形県酒田市）で

でドレス製作に取り組む県立鶴岡中央高校の女子生徒約30人が、授業の一環で見学に訪れた。3年の井上香朋さんは「生糸作りを見てイメージが膨らんだ。養蚕から製品まで一貫生産工程が残る地域の強みを生かし、私たちも頑張りたい」と話した。

一方で国内の製糸業を取り巻く環境は厳しい。安い海外製に押された需要減に新型コロナウイルス禍が追い打ちをかけ、年間生産量はコロナ禍前の5割に落ちていないという。

【長南里香】